

## (2)

氏名(生年月日)	フジ 藤	ナミ 波	ムツ 睦	ヨ 代
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	甲第156号			
学位授与の日付	昭和61年3月20日			
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当(医学研究科専攻, 博士課程修了者)			
学位論文題目	各種外科手術後合併症の病理学的検討			
論文審査委員	(主査) 教授 織畑 秀夫 (副査) 教授 梶田 昭, 教授 和田 壽郎			

## 論文内容の要旨

## 研究目的

手術手技の進歩によって外科手術の適応も拡大し、かつては難治とされた病症や適応外とみなされていた高年者にも外科的侵襲が加えられるようになった。これに伴って、術後合併症の対策も従来にまして重要な課題となっている。著者は病理学的資料の調査によって、術後合併症の実態を明らかにすることを目的として本研究を行なった。

## 研究方法

対象は手術後60日以内に死亡し、剖検が行なわれた42例で、手術の内訳は、消化器手術31例、循環器手術7例、開頭(脳)手術4例で、このうち50歳以上の例は30例(73%)である。これらの例について、臨床、剖検記録を調査し、主要臓器について組織標本を鏡検した。なお死後変化を除外するため、検索は死後2時間以内に剖検が行なわれた例に限った。

## 研究結果および考察

1. 消化器手術後14日以内に死亡した7例では、急性の腎腫張、肝壊死を示すものが多い。急性肺滲出は若年例では少ないが、高年例では頻度が高い。この期間には、手術局所における各種の破綻、基礎疾患としての肝硬変、悪性腫瘍の果たす役割も大きい。手術後15日以上30日以内の8例でも、原病の影響が強く見られ、撒布性血管内凝固も癌の撒布との関連が疑われる。細菌感染を伴う肺炎、各段階のショック腎などが認められる。31日以上60日以内の11例では、局所の過程の複雑化を契機とした感染の拡がり、とくに肺合併症をひき起こしたものが目立った。肺には遷延性肺炎、膿瘍

がしばしば見られ、真菌感染が高率であった。遷延性ショック腎、腎・腎盂感染症、肝の脂肪化、細胞萎縮などの所見も多い。

2. 循環器手術後60日以内の7例では、肺に水腫や出血の見られた例が多く、腎にはショック性の変化に加え、糸球体メサンギウムにも細胞・基質の増加がしばしばみられ、肝には全例にうっ血性の変化がある。これらについては、基礎疾患の影響も除外できない。

3. 脳手術後60日以内の4例は、いずれも感染性の肺炎、胸膜炎、肺内小血栓の像を示す。肝うっ血、肝細胞傷害はこれに関連した変化とみなされる。腎のショック性変化は、他群に比べてやや軽い傾向がみられた。

4. 42例中の20例に肺、腎の検索で小血栓が見られ、両臓器に9例、肺のみに11例観察された。腎では毛細血管レベル、肺では小動脈レベルに多い。これらには、播種性の形をとるものからごく少数点在する程度まで様々なものがあつた。

## 結論

著者は術後合併症を中心に臓器変化、組織像を検討した。肺の滲出、腎のショック性変化、肝傷害などはかなり共通してみられ、いわゆる多臓器不全の形を示すが、さらに基礎疾患の性格、手術的侵襲の様式、加齢変化などが修飾条件として作用しうることを明らかにした。

## 論文審査の要旨

手術手技の進歩によって外科手術の適応も拡大し、かつては適応外とされた難しい病症や高齢者にも手術が行なわれるようになった。これに伴って術後合併症の対策も従来にまして重要課題となっている。

この点に関し、著者は病理学的資料の調査によって、術後合併症の実態を明らかにする目的をもって消化器手術、循環器手術、開頭手術など42例について臨床・剖検記録および主要臓器の組織標本を検討した。

その結果、術後合併症を中心に各臓器の傷害像、基礎疾患の性格、手術の様式および加齢変化などに伴う特色を明らかにしたもので、学術上価値あるものと認める。

### 主論文公表誌

各種外科手術後合併症の病理学的検討

東京女子医科大学雑誌 第55巻 第10・11号  
903～920頁（昭和60年11月25日発行）

### 副論文公表誌

- 1) 14年間経過を観察され、最近 Pancoast 症状が出現した肺癌の1手術例  
東女医大誌 52 (3) 651～661 (1982)
- 2) 乳癌術後の他臓器重複癌の4例  
東女医大誌 54 (2) 257～262 (1984)
- 3) 無脾・多脾症候群の病理—とくに体静脈形成異常について—  
東女医大誌 54 (7) 574～580 (1984)
- 4) 乳癌に対する縮小手術につき、特に根治性と術後経過よりみた適応条件の検討  
日外科系連会誌 (11) 79～82 (1984)

- 5) 術後紅皮症の3剖検例—臨床的並びに病理学的検討—  
東女医大誌 54 (11) 1242～1245 (1984)
- 6) びまん性過誤腫性肺脈管筋腫症の1例  
東女医大誌 55 (1) 76～79 (1985)
- 7) Congenital nephrotic syndrome (Finnish type)(先天性ネフローゼ症候群<フィンランド型>)  
Acta Pathol Jpn 35 (2) 517～525 (1985)
- 8) 化膿性尿管管囊腫の3治験例と過去12年間の本邦報告例の検討  
東女医大誌 55 (6) 522～531 (1985)